



立野

練馬区立立野小学校

平成28年 3月号

<http://www.tateno-e.nerima-ky.ed.jp>

「子どもの可能性を広げる」

校長 池上 育志

先日、春一番が2月とは思えない暖かい日に吹き荒れました。突然の暖かさ故、その後の寒さもより厳しく感じましたが、三寒四温に入り春の近づきを実感する日々となってきました。おかげさまでインフルエンザについてはこまめな手洗いうがい指導等、保護者の皆様のご協力をいただき、ここまで学級閉鎖などには至らずに過ごせております。今後ともよろしく願いいたします。

先月13日に行いました道徳授業地区公開講座には大勢の方のご来校をいただきありがとうございました。2校時の道徳授業公開の後、むさしの発達支援センター所長 森山 徹先生に「子どもの可能性を広げる家庭教育」- 自分も他者も大切にすることを育む - というテーマでご講演をいただきました。森山先生からは届けたいのは「誇り」と「自信」であり、[大切なのは子どもからいろいろなものを奪わないこと]...自分のことは自分で責任をもつことが、どんな世代の子どもにも必要な力であること。子どもが行うべきことは、子どもに行わせる。例えば、夏の宿題や荷物持ち。

楽な方を選ばない「推進力」[心は学びと人間関係で磨かれる]...自己肯定感とは、自分の欠点と握手する力。子どもが直さなければと考えることが伸びにつながる。何でも「ありのままでよい」では成長の意欲を奪う。「個性」は「より伸ばしてあげたいところで使う」「よくないこと、できていないこと」で「個性」を使うと乗り越えなくてよいことになってしまう。

人と信頼関係を築ける「言葉の力」[その「言葉」...伝えたいことが伝わっていますか?]...言葉を正しく使っているか。例えば、子どもが話しかけてきて「後で」と返事をしたときに本当に「後で」対応を行ってあげたかどうか。行っていれば、子どもは次も「後で」と言われたとき、「きちんと後で対応してもらえると理解する。しかし、そうでなかった場合では子どもの理解は「後で」=「うるさい」になってしまう。言葉を信じなくなる。

未来を担う子どもたちへの大人からのギフト[自分の価値と可能性を信じられる子どもに 実践する子育て]...学校とは、子どもたちが「昨日の自分」を超えるためのチャレンジをするところ。「学び」と「成長」はサービスを受ける発想からは決して生まれえない。「学び」は失敗したり、上手くいかなかったりするところから始まる。

等の四つの柱でお話しいただきました。教員の私たちも再認識できる内容でした。是非、ご家庭におかれましては日常の中で生かしていただければと思います。

さて、昨年末に頂きました保護者アンケートの結果、及び、考察等を3月上旬に、また、今年度から2年計画で進めている小中一貫教育の研究に関するリーフレットを中旬頃に配布の予定であります。それぞれご覧いただければと思います。

また、次年度からの2年間、本校は練馬区教育委員会教育課題研究指定校(体育・健康教育)の指定を頂きました。一人一人が楽しく学べる授業改善を図りながら、進んで運動する子を育てていきたいと考えております。

今年度もいよいよ最後のまとめの月です。どの学年の子どもたちにも今年の自分自身の成果、成長を振り返り、4月からの新しい学年での自分自身の「めあて」につながることを確かめて欲しい時期です。今月も充実した日々を過ごし、よりよい生活につながることを願っております。